

要約

乳幼児期における“音楽”の存在は子どもの発達にどのような影響をもたらすのか、身体的にも、精神的にも発達への良い影響をもたらし、歌う・聴くことで、身の回りの人とも良い影響があるのではないかと考え、乳幼児の発達と音楽の関係について研究を行った。

初めは祭祀などで使われることが多かった音楽だが、徐々に親しまれていき、今では保育の場ではほとんどの園が音楽を使用している。そこで、子どもにとって音楽とはどのようなものかということの研究することにした。その結果、ストレス解消効果や思考力を高める効果、感情や行動を誘導する効果など、子どもの気持ちを作用する効果が見られることが分かった。そのため、子どもが落ち着くことのできるような環境を作り、自ら「やりたい」という気持ちを持てるよう、保育の場では音楽を使用することが重要であることが分かった。

また本研究では、音楽は子どもへの良い影響だけでなく、周りの保護者や保育者との関係にも良い影響を与えるのではないかと考え、子育て中の保護者と子育て経験のある保護者の方を対象にアンケートを実施した。この研究では、「子どもとの会話が増えた」「子育てに関するストレスや不安が少なくなった」など、保護者の気持ちが少しでも楽になったことから、子育てをする大人への良い影響があることが分かった。これにより、大人と子ども両方のストレスが溜まりにくくなり、親子関係にも良い影響があることが分かった。また、音楽により子どもと関わるきっかけも増えるため、保育者との間には信頼関係も芽生えやすいといったことも明らかになった。

さらに本研究では制作物に子どもの気持ちの変化が現れるのではないかと考え、子どもに音楽なしと音楽ありの状態では絵を描いてもらい、絵に変化があったのかということ进行分析した。対象年齢は4, 5歳とした。その結果、4歳児の音楽なしでは、それぞれの自分の好きな物や人、その時の感情などを単体で絵に描いており、周りに空白が少し多いように感じたが、音楽ありにすると、登場人物や文字、描く範囲が増えるなど、明るいイメージの絵を描くことが分析から明らかになった。また5歳児の音楽なしでは、4歳児よりも絵が具体的に描かれており、何を描いているか見てすぐわかる物が多かったが、音楽ありにするとさらに絵が抽象的になり、曲に出てきた登場人物を絵にしたり、絵のタッチからリズムにのっているように見えたりと、流れている音楽を聴きながら描いていることや気分の高揚あるということ、また集中力にも繋がるということが明らかになった。しかし、音楽だけでなく、保育者の声掛けやその時の流行りなど、周りの環境も重要であることも分かったため、音楽だけに頼らず、言葉での関わりも大切にしていくことで子どもの想像がさらに広がるのではないかと考える。

音楽により、子どもや周囲の大人へ良い影響をもたらすということが今回の研究で明らかになった。そのため、保育で音楽を使用することは、子どもとの関係を築くため、子どもの能力を伸ばす・引き出すためにとても良いことだと考える。しかし、音楽だけに頼りすぎず、言葉でのやり取りや遊びの中で能力を引き出すなどの方法も欠かさず、その時と子どもに合わせた方法で保育を行えたらより良い関係が築けるのではないかと考える。